ニューモラル
心のクローバー

第1週
思いやりの心を失わないように

現在では、時間当たりの生産性を少しでも高める手段として社内での競争が奨励されることがあります。もちろん、公正な競争のもと、お互いに切磋琢磨して成長することは、企業が生き残るためには不可欠といえますが、「同僚を押しのけてでも、自分の仕事の成果を挙げたい」ということになれば、職場の雰囲気はギスギスしてくるでしょう。

中国の古典には「終身路を譲るも百歩を枉げず」という言葉があります。一生涯、人に道を譲り続けたとしても、そのために余分に歩いた距離の合計は百歩にもならないということです。

私たちは、生産性を気にするあまりに思いやりの心を失わないようにしたいものです。

MEMO メモ

第2週
「雑用」という名の仕事はない

会社で、コピーを取ったり、細々とした報告書や社内文書を書いたりしていると、他の仕事に追われて、ついつい「何でこんな雑用をやらなければいけないのか」と思うこともあるのではないでしょうか。そんな時は、決まって誤字・脱字が発生したり、コピーの枚数を間違ったりと、不思議と仕事上のミスも増えてしまうものです。

しかし、よく考えてみれば「雑用」という名の仕事はありません。それぞれの仕事は必要なことであり、自分のやるべき仕事として一つ一つに心を込めて取り組めば、すべてが価値のある仕事になるのです。ですから、例えどんなに忙しくても、心を込めて「丁寧な仕事をする」ことを心掛けたいものです。

MEMO メモ

Illustration by Kyoko Kishi

週初めのミーティングで「学び」と「気づき」をシェア
毎日の生活の中で
こんなことを意識してみませんか？
メモ欄は週間目標の記入等にご活用ください

社員教育へのご活用はこちらから

第3週
社員一人ひとりが人間性を磨くために

社会人として初めての給料を手にしたとき、プレゼント等で親への感謝の気持ちを表す人もいるでしょう。親孝行の一つといえますが、その気持ちを常に持ち続けることは難しいものです。

今、社員教育の一環として「親孝行のできる社員を育てよう」という観点から、実際に「親孝行手当」を支給する企業もあります。たとえ花一輪でもプレゼントすることを通して、親に対する感謝の気持ちを育み、親孝行を実行に移せる人は、お客様や仕入先の要望などにも温かく対応できることでしょう。

ビジネスにおいて顧客に満足してもらうには、社員一人ひとりがよりよい人間性を持つことが大切です。親孝行の価値について、今一度考えてみませんか。

MEMO メモ

第4週
未来の人々の幸せに貢献するために

幸田露伴は著書『努力論』の中で、幸福になるために「惜福・分福・植福」という生き方を説きます。これを説明するのに、露伴は「福」をリンゴの木に例えて、次のように述べています。

毎年立派な実をつけるリンゴの木を、大切に管理して長持ちさせるのが「惜福」。実を身近な人に分け与えるのが「分福」。そして「植福」とは、リンゴの種を蒔いて新しい木を育てることで、より多く人に実が行き渡るようにすることです。

植福――それは自分の持つ力や知恵や経験を生かし、仕事や義務、役割をきちんと果たして、未来の人々の幸福に貢献することといえるでしょう。そして、それが自分の人間性を高めることにもつながるのです。

MEMO メモ

季節の植物 ≫ 山吹（ヤマブキ）